

やまなし

第96号
2020年12月

衛環研だより

発行：山梨県衛生環境研究所 甲府市富士見一丁目 7-31 TEL 055-253-6721
URL：https://www.pref.yamanashi.jp/eikanken/index.html

令和3年度からスタートする調査研究課題の紹介

令和2年度第1回課題評価委員会を9月に開催しました。

事前評価を行った研究計画・評価結果の概要は次のとおりです。

	調査研究課題
1	PM2.5 小型測定器 P-Sensor を活用した県民の生活環境における PM2.5 調査

調査研究計画評価結果の概要

評価実施年月日	令和2年9月		
調査研究課題 (部・科名)	PM _{2.5} 小型測定器P-Sensorを活用した県民の生活環境におけるPM _{2.5} 調査 (環境科学部・大気科)		
調査研究期間	(令和2年度プレ) 令和3年度～令和4年度 (2カ年)		
調査研究概要	<p>微小粒子状物質(PM_{2.5})の健康影響に関する環境省及び諸外国の研究では、一般的な環境レベルでも、呼吸器系を中心に健康影響が生じる可能性を報告している。山梨県では、春夏及び冬季の濃度上昇や、中・西部地域の冬季に高濃度化が認められており、健康影響に対する注意が必要である。</p> <p>本研究では、県民のPM_{2.5}による健康影響のリスク管理に寄与することを目的に、PM_{2.5}小型測定器を活用し、1) 生活環境におけるPM_{2.5}濃度調査の実施、2) 高濃度時等の対策に関する基礎情報の取得、3) PM_{2.5}の個人曝露レベルの推測方法の検討を行うこととした。</p>		
評価項目	評価点※		コメント
研究の必要性	5	④ 3 2 1	県内での健康影響や県民の健康に関する情報が得られ、ニーズに合致する。
研究内容の妥当性	5	④ 3 2 1	最新の簡易計測器の活用は妥当である。持ち歩くことによる測定への影響が懸念される。
研究内容に新規性・独創性	5	④ 3 2 1	小型測定器の手軽さを活用した新しい研究である。
研究資源の妥当性	5	4 ③ 2 1	研究費は少額に抑えられている。センサーは2台必要ではないか。
目的達成の可能性	5	④ 3 2 1	個人曝露方の推測はかなり難しいのでは。
期待される研究成果	5	④ 3 2 1	小型測定器の有用性、有効性が明らかになり、健康管理に役立つと期待できる。
総合評価点	総合コメント		
4	<ul style="list-style-type: none"> ・小型測定器の機動性を活かして、様々な場所や条件下でPM_{2.5}の実態を明らかにすることは、日常的にどの程度の曝露があるのか興味深い内容で、県民の健康管理に役立つと期待できる。 ・濃度に影響する多くの要因の存在が考えられるので、曝露レベルの推計方法、測定場所の特性や気象条件を踏まえた代表値の決め方、研究成果の表現の検討等も必要ではないか。 ・災害時避難の参考とするなら、高度による違いについては複数回の測定が望ましいと感じた。 ・生活圏における本研究は、新感染症のエアロゾル対策への応用の可能性あり。 ・個人曝露の状況と健康データの解析ができればさらに深い研究となる。 		
所の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・可能な範囲で、測定に影響が推察される要因、気象条件等を踏まえた解析を行い、誤解を招かないよう適切な表現で成果を示すよう努めます。 ・測定地点の状況や高濃度事象の発生頻度を踏まえ、代表地点測定における2台設置や複数回測定の実施を検討します。 ・曝露レベルの推測方法については先行事例が無いため、身近な生活様式での測定を重ねる中で検討を進めます。 ・曝露調査が主であるが、健康影響評価に繋がる知見も得る視点で取り組みます。 		